

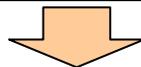
城原川ダムについて（報告）

ダム-2-1

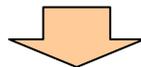
平成18年8月7日
佐賀河川総合開発工事事務所

● 城原川ダム の 経緯

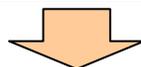
平成15年度の事業評価監視委員会で城原川ダム建設事業については、「河川整備計画が策定されるまでの間、当面基礎調査等に限って継続。河川整備計画策定後、事業評価監視委員会に結果を報告する」との対応方針



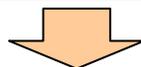
平成17年 6月 6日 佐賀県知事臨時記者会見
「城原川の河川整備についての佐賀県の方向性」(流水型ダム提案)



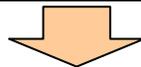
平成17年 8月 1日 平成17年度 第1回事業評価監視委員会へ報告
筑後川水系河川整備計画策定に向け、知事提案内容(流水型ダム等)の実現可能性を検討するための補足調査等を実施する。



平成17年11月 7日 佐賀県知事へ「流水型ダム」技術的検討結果報告

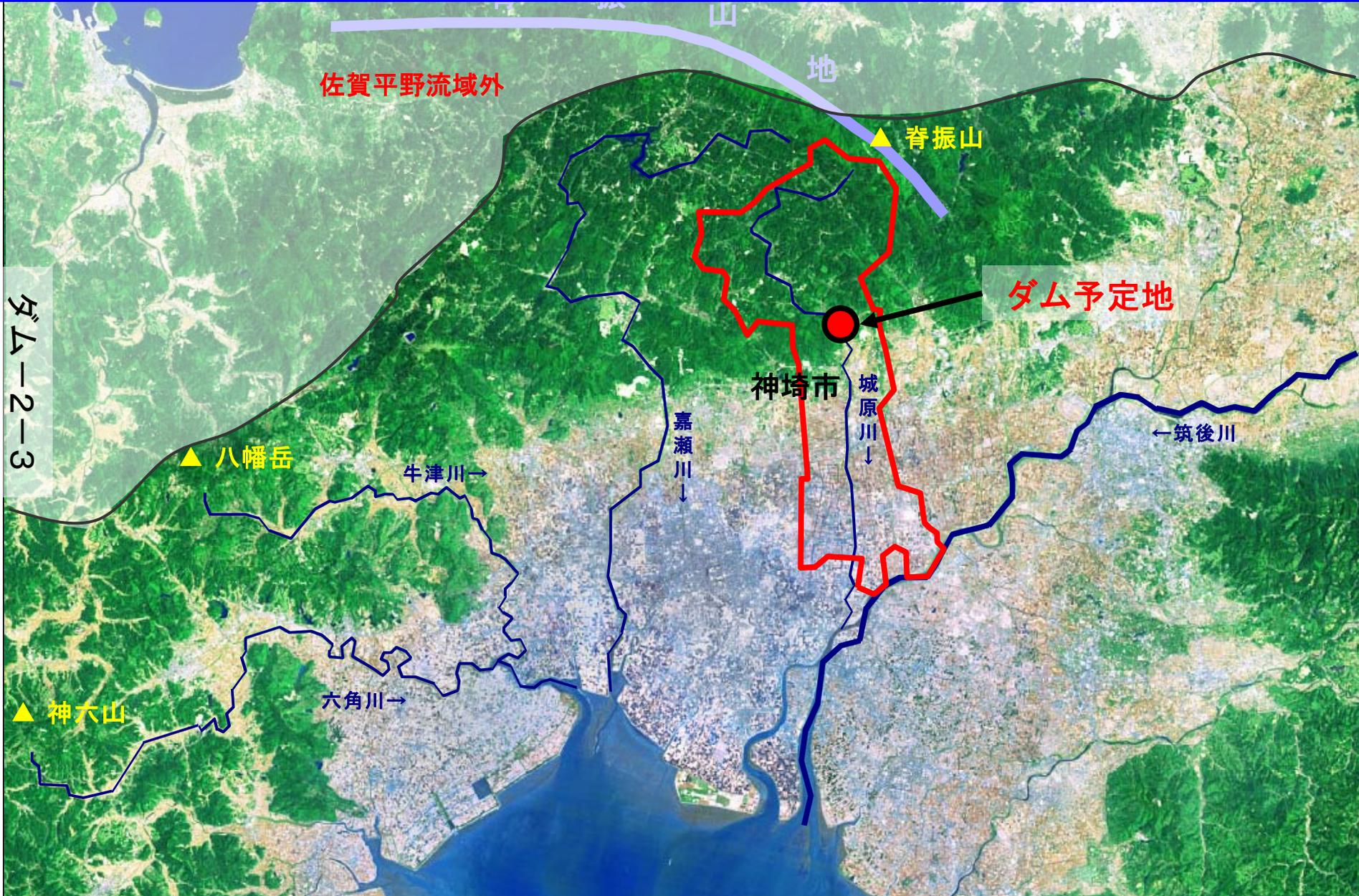


平成18年 7月20日 筑後川水系河川整備計画策定



平成18年 8月 7日 平成18年度 第1回事業評価監視委員会へ報告
筑後川水系河川整備計画の報告

● 城原川ダム の位置

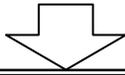


●流水型ダムについて

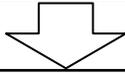
佐賀県知事提案概要（平成17年6月6日）

流水型ダム《河床に近いところから放流》

- ・ダム湖に水が溜まったり、土砂の堆積するのを最小限に抑える。
[土砂がきちんと流れ下る。水質の変化が避けられる。]

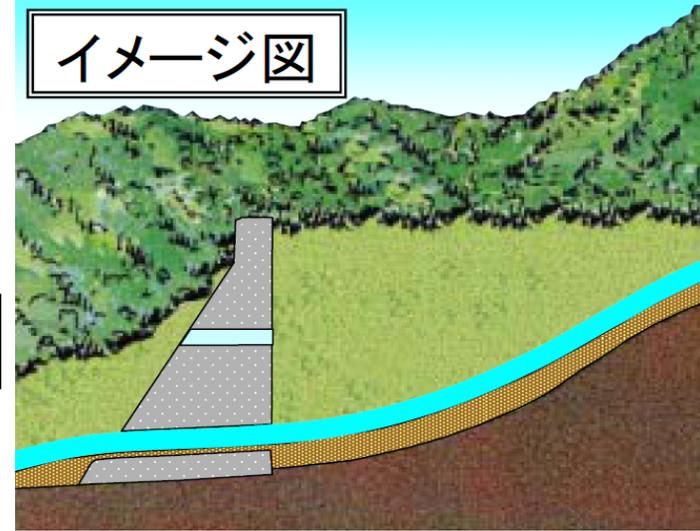


流水型ダムは環境と治水の両面で両立させることのできるダム



今後、技術的な検討が必要

イメージ図



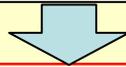
「流水型ダム」技術的検討結果報告概要（平成17年11月7日）

①放流口の設置位置

洪水後の貯水池内における土砂堆積や水の滞留を極力少なくし、下流へ水や土砂が流れやすい放流口の設置位置を検討した結果、**土砂等はほとんど貯水池内に堆積せず下流へ流れていく**と考えられる。

②放流口の閉塞

所定の洪水調節機能を確保した上で、巨石・流木によるダム放流口の閉塞の可能性と閉塞対策を検討した結果、**巨石の移動の可能性はない**と考えられる。仮に、巨石が移動した場合や流木対策については、**捕捉施設を設置することで対応が可能**と考えられる。



「流水型ダム」でも技術的には可能

●筑後川水系河川整備計画の城原川ダムの位置付け

筑後川水系河川整備計画より抜粋

4. 河川の整備の実施に関する事項

4. 1. 2 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する考え方
城原川ダムによる不特定容量の確保の必要性については、更に調査・検討します。

不特定容量：河川の維持及び既得水利の保護等、流水の正常な機能を維持するために必要な容量

ダム-2-5

4. 2. 1 洪水、高潮対策に関する考え方

(6)洪水流量の低減
支川城原川^{ひでけ}の日出来橋において、洪水流量を低減させるため、城原川上流に城原川ダムを整備します。

③城原川ダム
城原川ダムは、城原川の日出来橋において、河川整備基本方針に対応した流量690m³/sのうち、360m³/sの流量低減を図ります。

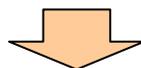
城原川ダム諸元

集水面積	42.5km ²
洪水調節容量	約300～400万m ³

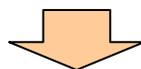
※城原川ダムの容量等については、今後の調査検討により変わる可能性があります。

● 城原川ダム今後の予定

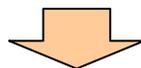
平成15年度の事業評価監視委員会で城原川ダム建設事業については、「河川整備計画が策定されるまでの間、当面基礎調査等に限って継続。河川整備計画策定後、事業評価監視委員会に結果を報告する」との対応方針



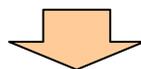
平成17年 8月 1日 平成17年度 第1回事業評価監視委員会へ報告
筑後川水系河川整備計画策定に向け、知事提案内容(流水型ダム等)の実現可能性を検討するための補足調査等を実施する。



平成18年 7月20日 筑後川水系河川整備計画策定



平成18年 8月 7日 平成18年度 第1回事業評価監視委員会へ報告
筑後川水系河川整備計画の報告



《今後の予定》

城原川ダム建設事業については、筑後川水系河川整備計画に基づき実施計画調査を進めていく。